

4K8K放送に対応

アナライザーノイズ可視化

マイクロクス



【立川】マイクロククス（東京都八王子市、片岡光仁社長）は、4K8K放送の視聴環境に影響を及ぼすノイズレベルを可視化するハンディ型シグナルアナライザー「MSA538TV」写真「MS

A558TV」を発売した。測定データはUSBメモリーに保存で

00円から。初年度60

台の販売を目指す。集合住宅の共聴設備で端子間ごとの電波・ノイズレベル測定に適し、ストレージ（外部記憶装置）の容量を確保すれば9999万ファイルの管理を可能にした。測定範囲を広げて施設全体のノイズ干渉のレベルチェックもできる。

源供給ユニットをセットにした「フィールド測定システム」を用意。山間部やビル街を移動しながら衛星放送の受信レベルが確認できる。また、上位モデルのMSA558TVにポータブルアンテナを装着すれば、戸内のWiFi（ワイファイ）環境といった無線LANの電界強度測定も行える。